

新しい鳥類目録『日本鳥類目録改訂第7版』とは

この9月に、日本鳥学会から日本産鳥類目録が12年ぶりに改訂され、『日本鳥類目録改訂第7版』として出版されました。今回は記載種の配列をはじめ、内容が大幅に変わりました。ただし対象の地域は従来と変わらず、島嶼を含めた日本全土です。

今回の改訂の目玉は、最近の世界バージョンの分類学が取り入れられ、国際的に共通性が保たれるようになったということです。とくに新しい手法「DNAバーコーディング」で得られたデータが多用され、分類が再検討をされたために、従来とは大きく違う配列（記載順序）になりました。そのため目や科レベルでは下記の表のように変わりました。また、種・亜種レベルでもいろいろ違ってきます。たとえば、シジュウカラは従来ヨーロッパに分布する、腹の黄色いものと同じ種で、亜種が違っているとされてきましたが、今回は別種とされています。それは学名を見ればわかり、従来本州産の亜種は *Parus major minor* でしたが、第7版では、*Parus minor minor* となりました（下線部注意）。英名も Great Tit から Japanese Tit となりました。さらに、新しく日本産として100種以上加わりましたので、新しい目録に親しめるまではしばらく時間がかかると思われます。種・亜種など詳しくは、日本鳥学会のHPをご覧ください。（川内 博）

日本鳥類目録改訂第7版の鳥類リスト〔目・科〕

| | | | |
|-----------|----------|-----------|------------------------|
| キジ目 | トキ科 | フクロウ目 | ツバメ科 |
| キジ科 | ツル目 | メンフクロウ科 | ヒヨドリ科 |
| カモ目 | ツル科 | フクロウ科 | ウグイス科 |
| カモ科 | クイナ科 | サイチョウ目 | エナガ科 |
| カイツブリ目 | ノガン目 | ヤツガシラ科 | ムシクイ科 |
| カイツブリ科 | ノガン科 | ブッポウソウ目 | ズグロムシクイ科 |
| ネットアイチョウ目 | カッコウ目 | カワセミ科 | メジロ科 |
| ネットアイチョウ科 | カッコウ科 | ハチクイ科 | センニュウ科 |
| サケイ目 | ヨタカ目 | ブッポウソウ科 | ヨシキリ科 |
| サケイ科 | ヨタカ科 | キツツキ目 | セッカ科 |
| ハト目 | アマツバメ目 | キツツキ科 | レンジャク科 |
| ハト科 | アマツバメ科 | ハヤブサ目 | ゴジュウカラ科 |
| アビ目 | チドリ目 | ハヤブサ科 | キバシリ科 |
| アビ科 | チドリ科 | スズメ目 | ミソサザイ科 |
| ミズナギドリ目 | ミヤコドリ科 | ヤイロチョウ科 | ムクドリ科 |
| アホウドリ科 | セイタカシギ科 | モリツバメ科 | カワガラス科 |
| ミズナギドリ科 | シギ科 | サンショウクイ科 | ヒタキ科 |
| ウミツバメ科 | レンカク科 | コウライウグイス科 | イワヒバリ科 |
| コウノトリ目 | タマシギ科 | オウチュウ科 | スズメ科 |
| コウノトリ科 | ミフウズラ科 | カササギヒタキ科 | セキレイ科 |
| カツオドリ目 | ツバメチドリ科 | モズ科 | アトリ科 |
| グンカンドリ科 | カモメ科 | カラス科 | ツメナガホオジロ科 |
| カツオドリ科 | トウゾクカモメ科 | クワイタダキ科 | アメリカムシクイ科 |
| ウ科 | ウミスズメ科 | ツリスガラ科 | ホオジロ科 |
| ペリカン目 | タカ目 | シジュウカラ科 | |
| ペリカン科 | ミサゴ科 | ヒゲガラ科 | |
| サギ科 | タカ科 | ヒバリ科 | |
| | | | 以上24目81科 〔260属633種〕 |